

<検証結果を示す記述>  
 ・進捗状況が良好である  
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）  
 ・進捗状況が不十分である

【業務運営】

中期目標	中期計画	関連する 具体の取組番号	令和2年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標			
1 組織運営の改善に関する目標			
<中期目標 II-①> 本学の諸機能を強化するため、ガバナンス機能の強化、人事・給与制度の弾力化、学内資源の戦略的配分等を推進する。	II-①-1 学長のリーダーシップのもと、本学の教育・研究・医療・社会貢献等の機能を強化できるようガバナンス体制の点検、見直しを継続的に行うとともに、IR 体制を強化し、財務データの分析等により、戦略的・効果的な資源配分を行う。 <経営戦略課><財務課>	II-①-1-1 II-①-1-2 II-①-1-3	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である（1点）  (コメント) ・ II-①-1-1 について、「新たなガバナンス体制の検討」を具体の取組みとしてあげているが、どの程度検討が進んでいるのか明らかでない。中でも、今年度後半ではガバナンス・コードへの適合状況に係る報告書の作成と、必ずしも適合していない原則等への対応が優先順位一位ではないか。それが「新たなガバナンス体制の検討」にも繋がることは期待できる。 ・ II-①-1-1 について、ガバナンス機能の強化と、「事務局職員のスキルマップ・スキル一覧」や「事務局人事ポリシー」の見直しとの関連性が不明。職員職務評価への反映や事務局共通の研修への活用が、ガバナンス機能の強化にどう貢献するのかの記述があるとよい。 ・ II-①-1-1 について、「総合戦略室（仮称）」の設置と、学内会議の運営体制についての見直しの関連性が不明。 ・ II-①-1-1 ガバナンス機能強化については、現状、多数の会議体が存在しており、1名で多くの役割を兼任されていることから、新たな会議が追加されるばかりで、決定権を持つ要人が多忙すぎると感じ、各案件の管理にかけられるエネルギーも省力化されてしまい、期日に追われ迅速・的確な意思決定を行うのは難しい状況にあるのではと想像します。前例にとられない大学事業の取捨選択並びに会議体の見直しや、ある程度の権限移譲を行い、意思決定のスピード感の確保と責任・役割の明確化をすることも重要かと考えます。 ・ II-①-1-2 について、「教育・研究等諸機能の強化」を具体の取組みとしてあげているが、IR 分析データの提供はなされている一方、具体的な効果・成果が見えてこない。今年度後半では、その効果・成果が見えるようにしていただきたい。 ・ II-①-1-2 について、「学長のリーダーシップに基づく意志決定・合意形成システムにより」とあるが、具体的にどのような取組を行ったのか。 ・ II-①-1-2 については、特に新たに導入したツールにより実現できた取組については、実際の資料を添付しないと具体的にどういったものが実現したのか理解できない。 ・ II-①-1-2 に、THE 世界大学ランキングの結果分析について報告したとあるが、そこで洗い出した強みと弱みについて、戦略的な資源配分や改善計画の立案等につながっていてこそ、成果と言える。そこまでのフォローアップができてきていることの記述があるとよい。 ・ II-①-1-2 IR 体制の強化について、状況に合わせて限られたリソースの中で、大学がより良い方向へ舵を切るためには、非常に重要な注力すべき分野であり、様々な取組みが概ね良好に進められていると考えます。しかし、IR の効果を実感するためには、ビッグデータを正しく分析・活用ができる人材の育成と体制強化が必要不可欠ですが、そこに割けるリソースの余裕が大学には無いと感じます。人材育成と並行して、こうした今後の時代に当たり前となる新たな事業に割くリソースを確保するためにも、多様化する大学の事業の取捨選択をベースに、必要な業務の効率化に向けた時間・費用の長期的な投資も必要であると考えます。 ・ II-①-1-3 について、当初挙げた具体の取組みが順調になされており、明らかな成果等もあがっている。なお、④については、重点研究分野への資源配分によって、どのような研究成果が創出できたのかなど、配分の成果を明示できるようにしていただきたい。 ・ II-①-1-3 については、資源配分に関し実績を提示しながら、具体的な資料を交えて記載されており、平成 30 年度の指摘事項を踏まえた改善の跡が見える。 ・ 年度計画で挙げた「目標値総額の 1/6 以上を配分」は年度末には達成いただきたい。
	II-①-2 女性、若手、外国人・国際経験のある教員を積極的に登用し、教育研究の活性化を図る。また、構築した	II-①-2-1 II-①-2-2 II-①-2-3	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である（1.1点）

令和2年度進捗状況（中間）に対する検証結果及びIR室コメント

	<p>年俸制適用教員に係る業績評価等について検証するとともに、年俸制およびクロス・アポイントメント制度などの混合給与を促進する。なお、若手教員については、引き続き若手教員の雇用に関する計画に基づき、雇用拡大を推進し、若手教員の割合を平成32年度末までに医学部においては16%以上、工学研究科においては14%以上にそれぞれ向上させる。また、女性の管理職等の割合を平成33年4月1日までに役員11.1%に、管理職10.9%以上に向上させる。</p> <p>&lt;人事労務課&gt;</p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>II-①-2-1について、「他機関の勤務経験を有する教員数の増加を目指す」としているが、現状はどのようになっているか（増加しているのか）を明示していただきたい。これら教員の登用を増やす具体的な取組はなされているのか、またその効果はあがっているのか検証いただきたい。さらに、中期計画では「外国人教員の積極的登用、クロアポの促進」を謳っているが、これらに対する施策を具体的に進めていただきたい。</li> <li>II-①-2-1にある「国際公募」の定義が不明。例えば、「教員公募の際は必ず日英両言語で募集するよう、ガイドラインを改正した。」など、具体的な取り組みの記載をお願いしたい。</li> <li>II-①-2-1について、国際公募の実施を行っているとのことだが、実際に国際公募からの採用実績はどれくらいであるのかが不明である。</li> <li>II-①-2-1について、教員の国際公募は時節柄難しいことが予想されるが、例えば雇用状況の悪化している民間からの教員公募を優先する等、具体的な取り組みを変更することも検討した方がよいのではないかと。</li> <li>II-①-2-2について、若手教員の割合は目標値をすでに達成しているが、必ずしも右肩上がりではないことを聞いているが、目標値達成で済ますのではなく、さらに向上させる施策を検討いただきたい。</li> <li>II-①-2-2 中期計画では、「若手教員の割合を平成32年度末までに医学部においては16%以上」とあるが、令和3年度以降16%を下回る予想となっており、今後の検討が必要である。</li> <li>II-①-2-2について、計画にはないが、人文社会系部門でも若手教員の雇用拡大の取組は行われているのか。</li> <li>II-①-2-2、II-①-2-3については、いずれも中間段階で目標値を達成しているということだが、目標値自体が大学の現状や社会情勢を踏まえ、適正であるか検証する必要がある。とりわけ女性管理職等の割合については、目標水準自体が国等の定める目標値などとも比較して低水準ではなかったか、国立大学法人の中でもどの程度の水準か検証が必要ではないかと。</li> <li>II-①-2-2、II-①-2-3について、目標を上回っており良好に推移しているが、目標を達成するために工夫したことがあればその取組の記載を願いたい。また、目標値を達成したことにより教育研究の活性化が図られることが最終目標なので、具体的効果が記載できると良い。</li> <li>II-①-2-3について、目標値は達成されているが、「計画的に採用等を行っていく」としており、特に女性の管理職の更なる増加を図る算段はなされているのか。</li> <li>年度計画に「他機関での勤務経験のある研究者の採用およびクロアポにより雇用の拡大」を謳っており、年度末にはその実績が示せるようにしていただきたい。</li> <li>中期計画を踏まえると、教職員の構成について、中長期的な展望をそろそろ策定してはいかかか。第4期では必ず求められると思われる。</li> <li>中期計画に記載されているクロス・アポイントメント制度などの混合給与の促進については、毎年度の推進が必要と思われる。</li> <li>中期計画に記載がある年俸制およびクロス・アポイントメント制度などの混合給与促進は、適正な教員評価の反映によるES向上、人材の確保、産学官連携の促進のため非常に良い取り組みと捉えており、形骸化させずに継続して意味のある形での促進を期待します。女性活躍については、本来特別な措置が無くとも女性自身が自然に活躍したいと思える国レベルでの文化の醸成が必要と思われ、1組織の活動では実現の難しい非常に困難な課題であり、現状も頑張っていると思いますが、そこに繋がる足がかりから、引き続き取り組んでいただきたいと考えます。</li> </ul>
--	---	--	--

2 教育研究組織の見直しに関する目標

<p>&lt;中期目標II-②&gt; 本学の機能強化に繋がる教育研究組織の見直しを全学的視点から戦略的に推進する。</p>	<p>II-②-1 全学の機能強化や各分野のミッション等を踏まえ、教育研究等組織の見直しを行う。このうち、学部においては、全学的な視点から、第3期中期目標期間当初に地域創生に資する国際地域学部を創設する。大学院においては、平成32年度末までに教育学研究科を教職大学院に一本化し、実践型教員養成機能</p>	<p>II-②-1-1 II-②-1-2 II-②-1-3 II-②-1-4 II-②-1-5 II-②-1-6 II-②-1-7 II-②-1-8 II-②-1-9</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である(1.1点)</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>II-②-1-1~4について、予定していた組織の見直しが完了している。しかしながら、完了しただけでは高い評価は得られず、やはり見直した結果質の向上に繋がるどのような成果・効果があったのかを検証し、明らかにする必要がある(II-②-1-8にも関連する)。場合によっては、顕著な成果が出れば、確定評価時に提示できるネタとなる。</li> <li>II-②-1-6については、「内部質保証実施小委員会を置き体制を整えた」とあるが、今後どのような取組をこの組織で実施していくのか追記してもらいたい。</li> </ul>
--	--	---	--

令和2年度進捗状況（中間）に対する検証結果及びIR室コメント

	<p>への質的転換を推進するとともに、工学研究科博士前期課程を改組し、学部一修士一貫教育を意識した教育課程を構築する。</p> <p>&lt;経営戦略課&gt;</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>II-②-1-6に「福井大学内部質保証規程」の策定及び自己点検評価の手順等のとりまとめを予定しているとあるが、具体的なタイムライン（完成時期、運用開始後のフォローアップ等）があるとよい。</li> <li>II-②-1-9の取組みは、第4期にも直結するものであり、更なる推進が望まれる。</li> <li>II-②-1-9について具体的な取組に「可能な範囲での県内他大学等との連携について検討を行う」と記載があるが、進捗状況について他大学との連携についての記載がないため不明（FAAについては少し記載はあるが…）。検討しているのであれば、年度末には連携の可否もあわせて検討の状況について明記いただきたい。</li> <li>II-②-1-9について、「総合教職開発本部」を令和3年度に設置するとしているが、これを大きく膨らませられないか。</li> <li>年度計画に「大学院において連携構築体制を進める」としているが、その実績は示せるのか。</li> <li>中期計画を踏まえると、組織の一本化等、教育研究等組織の見直しが着実に進められており、概ね良好と考えます。しかし、新たな組織が増える等、様々な分野で新規事業の追加の方が目立ち、人数が減ってゆく教職員個々の負担が増え、それぞれの事業にかけられるエネルギーが弱まる傾向にあり、いわゆる事業の選択と集中ができていないように感じます。大学に求められる役割が多様化する中、可能な限り全てを網羅できることが理想ではありますが、限られたリソースの中で最大限のパフォーマンスを発揮し、差別化を図るためには、前例に無い思い切った判断も必要かと考えます。</li> </ul>
<p>3 事務棟の効率化・合理化に関する目標</p>			
<p>&lt;中期目標II-③&gt; 事務局改革と人づくりを進め、事務局機能を強化する。</p>	<p>II-③-1 第2期中期目標期間に導入した経営品質活動の取組みについて、平成28年度に検証、31年度までに改善・改革を実施し、自主的・自律的な改善・改革活動に継続的に取り組む事務局づくりを推進する。</p> <p>&lt;総務課&gt;</p>	<p>II-③-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である（1.1点）</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主的・自律的な改善・改革活動を継続的に進めており、効率的な事務局作りは順調に進捗していることが窺える。しかしながら、中期計画に明記している「31年度までに改善・改革を実施」は達成されているのか、確認したい。また、その具体的な成果・効果を示していただきたい。</li> <li>年度計画に「改善結果を踏まえて」とあるが、それに対応する実績はあるのか。</li> <li>内容の大半が、中間以降にとりまとめ等を実施する内容となっており、現段階では評価できないが、「事務局独自のモニタリング事項を定めて共通のテーマに取り組む仕組み」を構築し、着実に実行していることは評価できる点と考える。また、若手中心の業務改革に着手した点も評価できる点ではあるが、自主的・自律的との観点でいえば、こうした改革のアイデア自体を若手職員から募り、その中からボトムアップ的に政策提言に繋げていくような発想の転換にも挑戦してもらいたい。あるいは、より踏み込んだ改革につなげるため、キャリア採用により異業種から採用した職員を中心としたグループを組織して、前職の優れた知見を本学の業務改革に活かす取り組みも検討されたい。</li> <li>業務改革企画室の提言については大いに期待しているが、各課へのフィードバックや、横の連携（課同士のつながり）を意識した情報/システムの共有による業務効率化といった目標も必要と思う。もちろんその点も検討済みかと思うが、進捗にも見える形で記載いただくとなおよいと思う。</li> <li>業務改革企画室の取り組みとして令和3年6月末までに提言をとりまとめる予定とのことであるが、案件によっては、その後も継続的に検討が必要事項もあると思われるので、継続的に取り組めるような体制も検討してもらいたい。</li> <li>業務改革は短期間で完了するものではなく、長期計画で回し続けるものと考えており、実際に数年後～十年後に管理職・中堅となる若い世代を中心とした、当事者意識を持った業務改革の取り組みは、理に合った活動と考えます。 現在の大学の仕組み上、全員ではありませんが、2・3年後には自分には関係がない、自分の時代にはチャレンジ・投資はあまりしたくないというネガティブな意識が、無意識に全体に蔓延しつつある傾向の中、当事者意識を持ち、長期的・俯瞰的な広い視野で動けるといことはとても貴重なことと捉えます。</li> <li>人材バランス的にも厳しい時代が近づいており、のんびりしてられないのは事実ですが、例えば、十分な準備・一人一人の意識改革が行われる前に、業務担当制の制度だけを急いで開始してしまった際のように、成果だけを急いで形だけを取り入れても、制度に合わせて後から自然に結果が付いてくることは難しいことが予想されるケースであったことから、せっかく思想は正しいのに、実質それ単体では意味がなくな</li> </ul>

令和2年度進捗状況（中間）に対する検証結果及びIR室コメント

			ってしまうので、成果を急ぎ過ぎず、事務局全体で重要性を認識して理解を得て当事者意識を持っていただく、改革の基礎工事を含めて計画的に、必要なタイミングで上層部からのトップダウンのお力添えも組み合わせながら、常に本来の目的を見失わないように取り組んでいただきたい（取り組みたい）と考えます。
	II-③-2 事務局職員の職務能力の開発・向上に引き続き取り組むとともに、高度な専門性を有する多様な人材の確保やグローバル化に対応できる職員を育成するために、隔年毎に、職階別研修（係長、中堅職員、契約・パート）と職務における専門能力の向上のためのスキル別研修を実施する。 ＜人事労務課＞	II-③-2-1 II-③-2-2	<p>(検証結果) <u>進捗状況が不十分である (0.9点)</u></p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>II-③-2-1 について、コロナ禍にもかかわらず、積極的に研修がなされていることは評価される。なお、「アンケートを実施し、点検・検証・改善」することとしているが、実際に検証がなされたのか、さらにそれによって改善が図られる予定なのか、明示していただきたい（年度計画にも明記してあり、その実績が年度末には示せるようにしていただきたい）。これに関連し、最終的に、ち密な研修によって、事務局職員の職務能力の開発・向上がなされたのか、その効果・成果を纏めていただきたい。</li> <li>II-③-2-1 について、アンケートの実施状況及び今後に向けた改善点等についての具体的な記載をお願いしたい。また、研修の受講により具体的にどのような効果が出たのか、成果の例を示して欲しい。</li> <li>II-③-2-1 職階別研修については、コロナ禍においても着実に実施しており、評価できる。</li> <li>II-③-2-2 について、コロナ禍による中止はやむ負えないが、本年度後半に実施される予定なのか？</li> <li>II-③-2-2 については、コロナの影響で中止となったとのことだが、オンライン開催という方向性は考えられなかったのか。コロナ禍で業務過多の中ではあると思うが、だからこそ情報交換に意義があるようにも思える。今年度は中止としても、北陸地区での横のつながりが途絶えることがないよう今後オンラインでの開催も視野に検討願いたい。</li> <li>II-③-2-2 について、本来の目標は、収集した他大学の状況や情報の活用・フィードバック、専門知識の向上であるため、中止になった委員会の代替を考慮して、期末時の達成状況を記載していただきたい。</li> <li>中期計画に記載されている職務における専門能力の向上のためのスキル別研修については、記載が不足している。人材育成方針に沿いつつ、コロナ禍における研修の計画・実施をお願いしたい。</li> <li>中期計画にはグローバル化に対応する職員の育成という点も記載があることから、その点に関する対応についても検討が必要ではないか。</li> <li>大学の授業と同様に、時代に合った形で育成を可能な範囲で継続して進められており、概ね良好と考えます。II-③-1 やIV-①-2 ともリンクさせながら、人材育成(意識醸成・スキル向上)への投資を継続していただきたいです。</li> </ul>

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

＜中期目標III-①＞ 自己収入を増加させ安定的な大学運営を推進する。	III-①-1 教育研究診療活動等の充実・強化のため、必要な組織・体制の見直しを行い、自己収入を増加させて安定的な大学運営を推進する。特に、多様なステークホルダーを募金対象とする「福井大学基金」については、募金活動に関する取組みの強化を図り、寄附金を着実に増加させる。 ＜研究推進課＞	III-①-1-1 III-①-1-2 III-①-1-3	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (1.2点)</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>III-①-1-1 について、共同研究数や受入額も増加しており、順調に進捗している。新たに導入したアワーレート方式による外部資金獲得が進むよう期待したい。</li> <li>III-①-1-1 について、「広報課、医学教育支援センターとの連携を強化し、学内シーズの発掘、技術移転を効果的に行う体制を構築する」とあるが、これに関する記載がない。</li> <li>III-①-1-1 について、学内シーズの発掘、技術移転を効果的に行う体制を構築について記載いただきたい。</li> <li>III-①-1-1 については、「産学官連携活動の推進、実行」に関する記載が不十分である。中間時点で未実施であれば、後半に向けた取り組みの見込みについて記載願いたい。</li> <li>III-①-1-1 にある松岡の支援に係るURAの増員について、具体のタイムラインや必要人員の分析について記載があると、なおよいと思う。</li> </ul>
--	---	-------------------------------------	---

令和2年度進捗状況（中間）に対する検証結果及びIR室コメント

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ III-①-1-1 について、アワーレート制の導入に伴い、昨年の中間時点と比べて、共同研究件数、受入金額が増加しているのか、具体的な数字を示してほしい。</li> <li>・ III-①-1-2 について、すでに目標値を越える寄附金を獲得しており、本年度後半でも同様に獲得が進むことを期待したい。</li> <li>・ III-①-1-2 について、8月末時点で寄附金獲得額が目標を既に達成しており、優れた成果であるが、具体の取組には「新たな戦略を策定する」とあるので、この点も記載いただきたい。</li> <li>・ III-①-1-2 について、新規寄附者の獲得及び継続寄附者の確保のための、新たな戦略について記載いただきたい。</li> <li>・ III-①-1-2 については、目的額を達成したことは高く評価できる点であるが、具体の取組に記載がある昨年度の取組の検証により改善を行った点に関する記述や、コロナ禍を受けたことによる学生への支援などで支出した額を踏まえての収支の検証という点も追記できるとよい。</li> <li>・ III-①-1-3 について、コロナ禍のため、当初の目標達成が難しいことは十分理解されるが、様々な取組みが緻密に実施され順調に進捗しており、病院収入の増加も期待できるのではないかと。</li> <li>・ III-①-1-3 については、一部具体的数値の未記載はあるものの、今後の予定を含め極めて具体的に取組の詳細、成果が記されており、PDCAを回していることが読み取れる点も評価できる。後半の取組にも期待したい。</li> <li>・ III-①-1-3 について、日頃からの様々な取組に加え、新たな方策を探りワーキンググループの立ち上げを行う等、経営改善に向けて病院全体で積極的に取り組んでいる。</li> <li>・ III-①-1-3 にある、経営戦略企画部会にてアンケート、意見交換を実施し、WGの立ち上げにつながった事例は興味深い。事務局のモデルケースになると思うため、是非その取組について広く周知いただきたい。</li> <li>・ III-①-1-3 について、【成果】欄の昨年度と比較した診療報酬金額が〇になっており、いくら減収になっているのか分からないので、追記をお願いしたい。増収のために様々な取組みを行っていることは評価できる。</li> <li>・ 年度計画に「実績の検証と見直しを行い、新たな取組に繋げる」としているが、年度末にはその実績が示せるようにしていただきたい。</li> <li>・ 中期計画では、「自己収入を増加させて安定的な大学運営を推進する」とあるので、第3期の確定評価に向けて、減少傾向にある寄附金、共同研究、受託研究についても検討いただきたい。</li> <li>・ 概ね良好であると考えます。感想になってしまいますが、コロナ禍対応も含めた支援依頼で、寄付額だけで非常に大きな金額をいただいていることを知り、非常に有難く、感謝を忘れてはいけなさと感じると共に、ご支援を反映した、より良い教育・研究・医療で地域・社会へ還元し、更なる寄付金が得られる（応援したくなる）ような、大学としての基礎が盤石な組織作りが大切であり、本目標を含めたその他目標の達成が、収入増にも繋がるのだと改めて感じました。</li> </ul>
--	--	--	--

2 経費の抑制に関する目標

<p>&lt;中期目標III-②&gt; 効率的な法人運営を行うため、人件費改革や管理的経費等の削減により経費の抑制を推進する。</p>	<p>III-②-1 IR機能を強化して、財務情報を戦略的に分析し、経費を抑制するとともに経費抑制のための業務改善に取り組む。また、エネルギー経費や施設・設備の更新経費抑制に向けた戦略を策定し、実施する。 &lt;財務課&gt;&lt;経理課&gt;&lt;環境整備課&gt;</p>	<p>III-②-1-1 III-②-1-2 III-②-1-3 III-②-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (1.3点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ III-②-1-1 人件費の抑制状況に係る具体的数値について記載いただきたい。</li> <li>・ III-②-1-1 にある「未使用ポイントに係る還元額の妥当性」は、人事関係者には通じるものと思うが、それ以外にはわかりづらい。これを検討することで人件費削減につながる取組みと思われるので、いつまでに、どのように見直す予定か、具体的方策を記載いただきたい。</li> <li>・ III-②-1-1 に、第4期に向けた人件費管理について検討を開始した、とあるが、具体的にどういうことか。方針なのか、管理方法なのか、その審議プロセスやタイムラインも記載いただくとわかりやすくなると思う。</li> <li>・ III-②-1-2 について、財務・経理課とも、当初挙げた具体の取組を着実に実行しており、コスト削減に繋がることが期待できる。中でも、「経費削減プラン報奨制度」でさらに実績を上げ、”注目される事項”として取り上げられるようにならないでしょうか。</li> <li>・ III-②-1-2 については、設定した取組内容については十分な達成を果たしていると評価できる。様々な財務情報を見える化したり、データ化したりしているが、それらが具体的にどのような業務改善につながっているかという観点からの評価が今後待たれる。</li> <li>・ III-②-1-2 について、具体の取組とそれらの成果が見えており、評価できる。特に、コストの見える化とその共有については、大きな成果だと思う。書面での共有も重要だが、FD・SDの形式による説明会で、学内に広く周知させることも是非検討いただきたい。</li> </ul>
--	--	--	--

令和2年度進捗状況（中間）に対する検証結果及びIR室コメント

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ III-②-1-2 について、年々減少傾向にある限られた予算を、適正かつ効果的に運用するための足掛かりとして、「教育研究コスト見える化」「弾力的な予算執行を可能とした複数年予算制度」等の取り組みは合理的な良い取り組みであり、順調に進捗していると考えます。より効果的なデータの分析手法や使い方についてはこれからかと考えますが、引き続き IR 機能の強化とそれに伴う人材育成・投資を継続していただきたいと考えます。</li> <li>・ III-②-1-3 について、ESCO 事業、エコ改修事業とも、順調に実施されており、経費削減が十分期待できる。</li> <li>・ III-②-1-3 の最初の2つの事項について、「〇〇を行う」という口調になっているが、まだ実行していないと感じる。実際は継続して実行していると思うので、「〇〇を行っている」としていただいた方がよいと思う。</li> <li>・ III-②-1-4 について、一部数値が未記入であるが、順調に計画が実施されていることは容易に推察できる。目標としてあげた数量シェア70%以上も達成している。</li> <li>・ III-②-1-4 医療材料、医薬品の削減状況について記載いただきたい。</li> <li>・ III-②-1-4 病院においては非常に合理的な経費削減のサイクルが上手く回せていると感じます。</li> </ul>
<p>3 事務等の効率化・合理化に関する目標</p>			
<p>&lt;中期目標III-③&gt; 教育研究等の質の向上等のため、流動資産および固定資産の有効活用を推進する。</p>	<p>III-③-1 資金（運営費交付金、授業料等自己収入、産学連携等研究費、受託事業費、寄附金における資金）の運用計画に基づき、資金を元本割れがないよう安全かつより利息の高い運用商品や金融機関を選択し、運用する。 &lt;経理課&gt;</p>	<p>III-③-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である（1.2点）</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の金利政策の下ではなかなか難しいかとは思いますが、安全性を前提に、少しでも運用益が上がるような選択をしていただきたい。</li> <li>・ 安全性に留意した資金運用を進めていると評価できる。他大学の動向なども調査されていたかと思うので、そうした点についても記載してはどうか。</li> <li>・ 無担保社債購入を行うための規程整備について、具体的なタイムラインがあるとなおよい。</li> <li>・ 計画的に取り組みがなされており、運用益の増収が期待できると思われる。</li> <li>・ 電力債の購入や、無担保社債購入の検討等、目標達成にむけて一定の成果を上げている。</li> <li>・ 堅実な方法を選択され、良好な状況であると思います。</li> </ul>
	<p>III-③-2 全学的に施設の有効な活用を促進し、計画的な維持管理の継続的な点検・見直しを行い、教育・研究の環境改善等を行うとともに、大学が保有する固定資産（施設等）を教育研究に支障のない範囲で学外者に有償で貸付ける等の有効活用を行い、自己収入の増加に繋げる。 &lt;施設企画課&gt; &lt;経理課&gt;</p>	<p>III-③-2-1 III-③-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である（1.1点）</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ III-③-2-1 について、当初挙げた具体的取組が順調に実施されている。退職教員の居室等の再配分について、本年度その基盤となる PDCA サイクルが確立できたとあるが、今後はそれによる再配分の実績をお示しいただきたい。</li> <li>・ III-③-2-1 については、現地調査の取組は高く評価できる。確立した PDCA サイクルを踏まえ、次の P に向けた見通しを示すことが求められる。エコ改修については、その実施によりどの程度の節減効果が得られたのか示すことができる化につながりよりよい。</li> <li>・ III-③-2-1 について、学内施設の状況把握と有効活用、省エネルギーを含めた施設への投資が健全に行われていると感じました。</li> <li>・ III-③-2-1 with コロナ、アフターコロナでの ICT を活用した教育のため、デジタル教材収録に使える設備の整った小さいスタジオ、無線ネットワークの拡充、学生のオンライン教材受講環境拡充等、DX化に伴って必要となる施設についても、今後ニーズや重要性が増した場合には、状況に合わせてご検討いただきたいです。</li> <li>・ III-③-2-2 について、産学官連携本部等の利用料金は昨年度に比べ増加したのか（コロナ禍のため、難しいことは十分理解していますが）。また、利用者の利便性向上を図る HP の見直しが計画されているが、本年度後半には実施頂きたい。</li> <li>・ 年度計画に「自己収入増加を目標に」とあるが、年度末にはその増加状況が示せるようにしていただきたい。</li> <li>・ III-③-2-2 について、本学ホームページ「施設利用のご案内」の階層見直しが進んでいないようなので、年度末までには成果を記載できるよう</li> </ul>

令和2年度進捗状況（中間）に対する検証結果及びIR室コメント

			<p>にしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Ⅲ-③-2-2については、従来の手法では有効活用が進まない可能性が高いので、コロナ禍を受けた利用者の利用目的の変容、ニーズの変化といった視点での点検・見直しを視野に入れていく必要がある。例えば、信州大学や宇都宮大学のように学内にWi-Fiスポットを設置することで、レンタルオフィスのようなニーズにも対応できるようになるのではないかと。</li> <li>Ⅲ-③-2-2について、HP上の「施設利用のご案内」の見直しが行われていないとのことだが、何らかの取り組みを行った結果、記載の内容を今後検討していくことになったのか、もしくは、そもそも取り組み自体実施していないのかが見えてこない。年度末の進捗状況では、具体的な実施内容の記載もお願いしたい。</li> <li>Ⅲ-③-2-2 &lt;機器利用について&gt;において、R1年度と記載内容が同じだが、毎年、要項の見直しをしているということでよいか確認いただきたい。</li> </ul>
--	--	--	--

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

<p>&lt;中期目標IV-①&gt; 教育研究等活動の活性化に資する適切な評価制度の構築を推進する。</p>	<p>IV-①-1 教育研究等活動の更なる活性化や大学運営の改善に資するため、平成28年度末までに全学的にIR機能を整備し、業務の分析・評価体制を充実・強化する。さらに、分析結果を基にした資源配分を行う。 &lt;経営戦略課&gt;</p>	<p>IV-①-1-1 IV-①-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である(1.1点)</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IV-①-1-1について、確定評価に向けて、4年目終了時に達成できていないKPIについては、改めて担当部署に達成するよう依頼する必要があります。</li> <li>IV-①-1-1について、期末の達成状況に「設置されたIR室が有効に機能し・・・」とあるが、進捗状況からIR室がどのように機能しているかわからない。年度末にはIR室の機能状況についても明記いただきたい。</li> <li>IV-①-1-1の達成に課題のあるKPI等データの検証について、具体のタイムラインと方策があるとよい。例えば、IR室と担当部局による意見交換の実施などが考えられる。</li> <li>IV-①-1-1 データ活用の努力は評価できるが、教育・研究等諸機能の強化を行うことが最終目的となると思うので、期末時には具体的にどこを強化したのかを含めて記載していただきたい。</li> <li>IV-①-1-1 認証評価に向け、順調に準備が進められていると考えます。</li> <li>IV-①-1-1 適切な評価制度の構築は、非常に重要な要素と捉えており、掲げられた「期末の達成状況」は正に目指すべきところであると考えます。将来的には、学内の各システムやサーバに点在するデータを、よりスムーズに集約・分析・活用できるように、可能な限り部局を超えて一元管理できる仕組み作りに向けて全学的な検討が必要かと思われます。</li> <li>IV-①-1-2について、当初挙げた具体の取組が着実にされ、PDCAに基づく学長裁量経費の配分などがなされており、その効果が見られる。機能強化経費の配分にはPDCAサイクルが回っており、本年度より役員ヒアリングに基づく評価による傾斜配分がなされる等、戦略的な予算配分が強化されているが、”注目される事項”としてアピールできないでしょうか。</li> <li>IV-①-1-2については、資源配分に関し実績を提示しながら記載されており、設定された計画通り進捗していることが窺える。ただ、Ⅱ-①-1-3と内容がほぼ同一だと思われるがこれは問題ないのか。</li> <li>IV-①-1-2について、Ⅲ-②-1-2の取組と同様、コストの見える化を行ったことは大きな成果だと思う。分析結果を、広く教職員に周知し、理解度を深めるためにも、口頭による説明会があると、全学的な教育研究の活性化に繋がると思う。</li> </ul>
	<p>IV-①-2 教育研究等の活性化に資するよう教職員の評価制度に基づく評価結果や優れた業績を人事評価上の処遇へ反映させるなど、一層の適正化を進める。</p>	<p>IV-①-2-1 IV-①-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である(1.1点)</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IV-①-2-1について、教員活動状況評価が来年度となり、当初挙げた具体の取組が実施できないこととなったが、業務実績報告(年度計画にも</li> </ul>

令和2年度進捗状況（中間）に対する検証結果及びIR室コメント

	<p>&lt;人事労務課&gt;</p>		<p>記載されています)においてはその代わりとなるような取組を実施したことは記載する必要はないのか(何かネタはありませんか)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IV-①-2-1にある教員活動状況評価規程の改正について、令和2年度末までに、などの具体のタイムラインがあるとよい。</li> <li>IV-①-2-1に、各部門あてに評価基準等の再検討を依頼することとしているが、基準は各部門で定めるのか、またはその意見を集約して規程に反映させるのか、その点があいまいなため、明確に記載願いたい。</li> <li>IV-①-2-1について、評価年度を1年後ろ倒ししたことにより、評価に不利益が出ないよう、配慮願いたい。</li> <li>IV-①-2-1 教員評価についてはこれからかと思いますが、新たな教員活動評価の実施に向け、引き続き対応をお願いしたいです。</li> <li>IV-①-2-2については、具体的な中身が見えないので、もう少し具体的に何をどのように実行したのかわかる記載とされたい。そういう効果を見込んでの改正なのか、その期待した成果は得られたかをまた検証できる材料ともなる。また、中間段階で進捗率100%とのことだが、職務評価制度については他大学のみならず異業種などを含め各界で様々な試行が行われているので、例えば360度評価の導入も含め、更なる改善、改革が必要と思われ、この段階で100%とするのは現状の制度で完成していると判断している証左のようにも見受けられ、明らかに時期尚早ではないか。更に踏み込んだ制度の見直しを求めたい。実際、キャリア採用者の中には既に360度評価が導入された企業からの転職者もいる。その知見を取り入れるなど身近なところから着実に手を付けていくべきである。</li> <li>IV-①-2-2 事務局におけるスキルマップ、人事ポリシーの見直し等の取組は、一般企業だけでなく、大学にとっても重要な要素の1つである、人材育成並びに従業員満足度向上のための足掛かりとして、非常に素晴らしい取組だと感じました。人材育成(意識醸成・スキル向上)並びにES向上は組織の全ての活動における基盤/地盤であり、これが不安定な状態では、どれだけ素晴らしいものを上に置いたとしても崩れてしまうものと考えます。長い道のりになると思われませんが、今後も本来の目的を見失わずに継続して注力いただけることを期待します。</li> </ul>
--	----------------------	--	--

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

<p>&lt;中期目標IV-②&gt; 国立大学法人として、教育研究等の成果や大学運営の状況を積極的に社会に発信する。</p>	<p>IV-②-1 本学の教育研究等活動の状況や地域における役割等について、大学ポータル等を活用し積極的に社会に情報発信するとともに、外国語によるホームページの充実等により国際的な広報活動を展開する。 &lt;広報室&gt;</p>	<p>IV-②-1-1 IV-②-1-2</p>	<p>(検証結果) <u>進捗状況が不十分である(0.5点)</u></p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IV-②-1-1 について、コロナ禍の中ではあるが(予定の取組が実施できなかったことは十分理解できる)、積極的な情報発信に工夫いただきたい。</li> <li>IV-②-1-1 について、インターネットCMのターゲットはどのようなステークホルダーを対象としているのか。(卒業生、受験生、保護者等…)</li> <li>IV-②-1-1 大学ポータル等の発信ツールの活用について、記載願います。</li> <li>IV-②-1-1 については、コロナ時代に柔軟に対応した姿勢は評価できる。ただ、前年度以前の実施状況と比較してコロナ禍による影響もあると思われるが、取組の内容に関する記載が薄くなっている。取組もうとしていたものは何だったのか、なぜできなかったのか、今後どうしたらよいのかといった省察的な検証を進めていくことも必要ではないか。</li> <li>IV-②-1-1 について、大学の取組について積極的に社会へ情報を発信するとあるが、国際的な広報活動に関する成果について記載がなく、また実際にも十分な活動ができていないと感じる。国際的な広報活動に関する今後の計画やタイムラインについても記載があるとよいと感じる。特に、英語版HPの刷新は計画であると聞いているため、年度末の進捗には是非記載いただきたい。</li> <li>IV-②-1-1 新たな情報発信の方法を試している点が評価できる。</li> <li>IV-②-1-1 従来の対面での情報発信の代替として、コロナ禍におけるオンライン活用が適切に行われており、オンラインの活用は今後も継続していただけると良いと感じました。</li> <li>IV-②-1-2 について、進捗が20%であり、本年度後半で方策を再構築いただきたい。</li> <li>IV-②-1-2 について、リリース件数は増加しているのか?</li> <li>IV-②-1-2 SNSによる情報の発信(フィードバック)に係る検討結果について、記載願います。</li> <li>IV-②-1-2 の具体の取組にある「効率的・効果的な情報収集・発信のため、Web上の情報を自動取得する」ことが、計画とどう関係するのかが不明。成果の「時間が係りすぎる」の意味が不明。また、正しくは「かかりすぎる」。</li> <li>IV-②-1-2 について、必要最低限の機能の利用を検討していくとのことであるが、十分な効率的、効果的な情報収集ができるか疑問が残る。中</li> </ul>
---	--	------------------------------	---

令和2年度進捗状況（中間）に対する検証結果及びIR室コメント

			<p>途半端にならないよう十分に検討願いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IV-②-1-2 評価指標として挙げられている、記者説明会の実施件数、大学WEBサイト（日・英）のアクセス件数等の昨年度との比較データについても記載いただきたい。</li> <li>年度計画には「他部署との連携を強化し」と謳っているが、それに対応する取組は実施されているのか。</li> </ul>
V その他業務運営に関する重要目標			
1 施設設備の整備・活用等に関する目標			
<p>&lt;中期目標V-①&gt; 施設設備面のマネジメントを強化し、教育研究等環境の改善充実を推進する。</p>	<p>V-①-1 教育研究等の環境改善を推進するため、キャンパスマスタープランについて、随時学内委員会で検討を行い、必要に応じ修正する。既存施設の状況については、施設整備計画を基に、毎年度点検・見直しを行うことで、省エネルギーを含めた維持管理および施設整備を推進する。また、既存施設の有効利用を進めるため、学長のリーダーシップ等により、スペースチャージ制度によるスペースの確保と再配分を一層推進し、教育研究活動の活性化を図る。 &lt;施設企画課&gt;</p>	<p>V-①-1-1 V-①-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (1.1点)</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>V-①-1-1 マスタープランでは、附属学園や病院における通信設備の重要性については考えられていたかと思われませんが、誰も予想していなかったコロナ禍により、大学教育へのICT活用、DX化推進の波が急激に押し寄せたため、今後の状況やニーズによっては、DX化推進に伴って、必要となるスペースや設備の優先度を上げる必要があるかもしれません。</li> <li>V-①-1-2 については、Ⅲ-③-2-1と同様。なお、中期計画では「スペースチャージ制度によるスペースの確保と再配分を一層推進」をあげているが、スペースチャージ制度による具体的な効果・成果を示していただきたい。</li> <li>V-①-1-2 については、現地調査の取組は高く評価できる。確立したPDCAサイクルを踏まえ、次のPに向けた見通しを示すことが求められる。エコ改修については、その実施によりどの程度の節減効果が得られたのか示すことができると見える化につながりよりよい。</li> <li>V-①-1-2 について、退職教員の居室等の利用状況調査を行ったとあるが、退職教員の居室以外では具体的にどのようなスペースの調査を行ったのかを示していただきたい。</li> </ul>
2 安全管理に関する目標			
<p>&lt;中期目標V-②&gt; 学生および教職員の安全管理を強化するための取組を推進する。</p>	<p>V-②-1 学生の修学環境について、定期的な点検を行い必要な改善を実施するとともに、教職員相互による安全管理に関する自主的な点検・改善を推進し、教職員の安全管理に関する意識向上を図ることにより、法定の巡回点検による改善点の指摘事項を減少させる。 &lt;人事労務課&gt; &lt;教務課&gt;</p>	<p>V-②-1-1 V-②-1-2 V-②-1-3 V-②-1-4</p>	<p>(検証結果) <u>進捗状況が不十分である (0.8点)</u></p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>V-②-1-1 について、昨年度の問題個所の改善状況を確認したとあるが、実際に改善されていることなのかを記載願いたい。</li> <li>V-②-1-1 について、年度末には何件指摘事項があったか、第2期中期期間中の指摘事項件数と比較してどうなのか、どれだけ改善されているのか等、具体的な数字を用いて示していただきたい。</li> <li>V-②-1-1 について、これまでの取組をふまえて職場環境の改善と検証を行い、教職員全体のさらなる安全管理に関する意識向上に必要な取組の計画、実施が確認できない。</li> <li>V-②-1-2 について、講義室等で不備等の確認がなされているが、本年度後半でできるものについては具体的に改善いただきたい。また、コロナ感染防止に向けた対応も引き続きお願いしたい。</li> <li>V-②-1-2 については、適切な対応がとられていることが確認できた。ただ、中期目標の安全管理という視点でとらえると、例えば講義室の避難経路の確認なども併せて実施すべきではないか。例えば、冬季などは日没時間が早いと、避難経路の照明確保などが適切になされているかといった点や避難路は2か所以上確保されているかなど見落としがちと思われる。学生の安全確保は大学として最重要事項とすべき点かと思われるので、縦割りの弊害などでそうした点が見逃されることのないよう関係各所協力して対応願いたい。また、松岡地区では新入生を対象とした避難訓練の検討や、学生生活アンケートなどを通じて安全に関するものをピックアップして対応しているとのことで、文京でもこうした対応も検討されたい。</li> <li>V-②-1-2 およびV-②-1-3 について、学生の満足度調査（アンケート）等は実施していないのか。実施しているのであれば、どのように活用し</li> </ul>

令和2年度進捗状況（中間）に対する検証結果及びIR室コメント

			<p>ているか含めて明記いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ V-②-1-3 について、問題個所の多くが改善されている。</li> <li>・ V-②-1-3 については、施設関連の点検、改善については適切に対応されていることが確認できる。ただ、例えば「災害対応マニュアル」等の危機管理体制に関する点検、見直しに関する事項についての対応が見えない。新型コロナウイルスなどの問題への対応も含めたマニュアルに改定していく必要もあるかと思うので、対応を検討されたい。</li> <li>・ V-②-1-4 については、学生対象の避難訓練に関して昨今の激化する災害対応やテロなどの問題もあるので、是非実現してもらいたい。同様の取組を文京キャンパスでも実施していることから、キャンパスによって実施内容に差が生じることがないように、敦賀キャンパスも含め定期的に情報交換などを行ってはどうか。</li> <li>・ V-②-1-4 について、学生からの意見を受け、改善した具体例を記載いただきたい。また、意見があったものの未着手の事項について、安全面から優先順位を付け、具体の期限を設定した上で、改善目標を設定することも可能と考える。</li> <li>・ 年度計画では「教職員の安全管理に関する意識向上を図る」を謳っていますが、該当する取組は実施され、意識は向上したのでしょうか。</li> <li>・ 中期計画では「法定の巡回点検による改善点の指摘事項を減少」をうたっているが、実際に減少しているのか示していただきたい。</li> <li>・ 中期計画について、定期的な点検と対応が健全に行われていると感じます。コロナ禍における一部対面授業の対策も可能な範囲で適切に行われていると思います。</li> </ul>
--	--	--	---

3 法令遵守等に関する目標

<p>&lt;中期目標V-③&gt; 法令遵守等を徹底するとともに、危機管理機能の強化を推進する。</p>	<p>V-③-1 監事の権限強化に伴い、サポート体制を充実させる。さらに、法令遵守(コンプライアンス)並びに公的研究費の不正使用防止のための教育や研究活動の不正行為防止のための研究倫理教育を着実に進め、教職員の受講状況や理解度を把握し、教育の受講状況を部局ごとに公表するなど、組織的に浸透させる。また、危機管理体制の強化のため、経営上のリスクマネジメントの観点から、定期的・継続的な点検を行う。</p> <p>&lt;監査室&gt;&lt;総務課&gt; &lt;研究推進課&gt;</p>	<p>V-③-1-1 V-③-1-2 V-③-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である（1点）</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ V-③-1-1 については、9月以降、非常勤監事のみ体制となることに対する、支援体制の具体的な見直し等について検討が必要になると思われる、その点に関する記載を追記していただきたい。また、非常勤監事の体制へ移行したことによる監査機能の低下など中期目標の内容に逆行するような影響がないかといった点も検討していただきたい。</li> <li>・ V-③-1-1 の新監事による指摘・対応事項に対する対応計画の策定について、タイムラインを明確にしていきたい。</li> <li>・ V-③-1-1 監事の交代もあると思うが、例年に比べて進捗が遅れている。年度目標を達成できるのか判断ができない。</li> <li>・ V-③-1-1 そもそも監事の権限強化については、強化というよりも、監査から改善までを含めた、当たり前の健全な監査体制の構築が本来の意味合いなのだと思われながら想像します。第三者から見た組織の課題・提言は健全な組織作りに欠かせないものと考えますが、当然、すべてを鵜呑みにはできない事情もあり、こちらも本業を行いながら時間が無い中ではあるものの、真剣に向き合う必要があるものです。もし、せつかく第三者からの的を射た意見をいただいても、組織が生まれ変わるための気付きにすることなく、形式的に終わらせてしまうだけにならないような、健全な体制作りを期待します。</li> <li>・ V-③-1-2 について、受講率の向上や理解度の向上・高水準維持を具体的取組みとしてあげており（年度計画にも明記されています）、それに向けた取組がなされているが、実際に向上したのか示していただきたい。</li> <li>・ V-③-1-2 については、新型コロナウイルスの問題に代表される感染症によるリスクというものも大きな経営上のリスクとなり得られるので、走りながらとなるかと思われるが、その対応についても検討を進めていく必要があるのではないか。</li> <li>・ V-③-1-2 について、安否確認訓練も重要だが、避難・防災訓練の重要性については無視できない。今年度はコロナ禍により実施できないのは仕方ないが、各施設の避難経路や非常時の行動フロー等の周知は書面でできるため、是非検討願いたい。</li> <li>・ V-③-1-2 コンプライアンス教育に関しては、組織・ブランドを守るために必須の取り組みであり、各構成員が、なぜ研修が必要なのか、必要性・重要性を理解した上で全員が受講できるよう今後も継続して進めていただきたいです。</li> <li>・ V-③-1-3 については、受講の徹底に向けて通知を行っているなど適正な対応をとっていることが窺える。今後は単に知識としての理解に留まることなく、不正防止の意識が深く組織に根付いていくよう理解度の維持・向上に努めていく手立てを検討していく必要がある。</li> <li>・ V-③-1-3 について、未受講者に対して、受講通知を行っているとのことだが、実際の受講率については、どのような状況なのかを示していた</li> </ul>
---	---	--	--

令和2年度進捗状況（中間）に対する検証結果及びIR室コメント

			<p>だくとより分かりやすいと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ V-③-1-3 目標では、点検を行い、必要であれば見直し・改善を行うとあるが、研究データの保存等について、各部局に確認を依頼した結果がどうであったのか記載がない。結果を受け、見直し・改善は必要であったのか記載いただきたい。</li> </ul>
	<p>V-③-2 情報セキュリティの維持と強化に向け、利用者の意識向上と情報セキュリティ体制の充実強化を行う。</p> <p>&lt;学術情報課&gt;</p>	<p>V-③-2-1</p>	<p>(検証結果)</p> <p><u>進捗状況が不十分である (0.9点)</u></p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的取組みとして、「優先順位を定め可能なものから実施」としているが、実際にそのようなことがされているのか、示していただきたい。</li> <li>・ これまでの取組みは対策等基本計画に沿ったものなのか示していただきたい。</li> <li>・ 年度計画には「利用者の意識向上」とあるので、その成果等も記載できるようにしていただきたい。</li> <li>・ 必要なセキュリティ対策においては、概ね良好であることが確認できたが、具体的取組に記載されている「検討された施策に基づき実施した内容を評価し、計画の見直し、改善を行う。」については確認することができなかった。</li> <li>・ 情報セキュリティの維持のためには、利用者、つまり、学生及び教職員全員の意識向上が重要である。学生対象の情報セキュリティ研修を実施したとあるが、研修受講率や、研修の理解度を図る指標及びその推移が示されるとなおよいと思う。</li> <li>・ 利用者であり、かつ学生に指導する立場である教職員のリテラシーの向上は、情報セキュリティ体制の充実強化の基礎となると考える。e-learningも活用しつつ、各課のセキュリティ責任者／担当者を通じた研修の推進等、より実効的な研修の実施について、検討願いたい。</li> <li>・ 学生対象の情報セキュリティ研修や教職員のセキュリティ研修会の受講率について、追記をお願いしたい。</li> <li>・ 情報セキュリティはコンプライアンスとも強く関連しており、業務上情報システムの利用が当たり前となった現在においては、情報セキュリティの意識の低さが、そのまま法令違反・ブランド力低下に繋がるリスクが高いことから、コンプライアンス教育と同等の注力が必要と考えます。今後も継続して構成員全員が目的・必要性を理解した上で受講できるよう進めていただきたいです。</li> </ul> <p>学内の教職員には情報関連に苦手意識を持つ方が大勢いるため、組織のレベルに合わせて e-learning による研修内容も、具体的に何をすれば良いのか、どんな事例に気を付ければ良いのか等、可能ならば教員・職員で内容を分け、身近でイメージしやすいケースを例にした演習のようなものを含めた、より分かりやすい具体的な内容を中心にとできると良いのかなと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り返しになりますが、情報セキュリティに関しては、重要で手放せないものでありながら、苦手意識を持つ方が大勢おり、情報セキュリティに関する全学的な組織でさえも属人化が問題になっているかと思われます。情報セキュリティに関する人材の育成、体制・権限の見直し、それらに伴う投資が必要な注力すべき分野と考えます。</li> </ul>